

送りたり、

〔菜藥使記備州〕照任曰、備中ノ松山ト云フ所ニ、此頃珍シキ牽牛花ヲ生ゼリ、花葉ノ形ハ古來ヨリ有リ來ルニ同ジクシテ、丈長カラズ、三四尺位ヲ限トス、花ノ色白ト紺ト咲分ケ、或ハ白地ニ紺ノ細カナル星入り、又紺ニ白キ細キ筋入ルモアリ、其年ノ子ニテ又生ジ花咲ク、近比京師ニテ松山アサガホト云フ、

〔玄同放言二〕山牡丹

因にいふこの兩三年來の刻本、牽牛品、及朝貌通を閱するに、異様雜色、數十種を載せたり、しかれども黒牽牛はさらなり、黄花も亦稀なり、好むもの、云、今年眞黃處々に出づ、これ未曾有の奇品なりといへり、按ずるに、元祿三年の印本、俳諧物見車の卷端に、朝貌に黃あり白きありといふ腰句を出だして、當時の俳諧師、似船、晚山、言水等數人に、上の五文字をおかせたるに、似船は末の世や云々、常牧は僧いかに云々、我黒は時世かな云々、晚山は蝕の夜や云々、と五文字を冠せたり、又如泉は、當分は五もじ置きかね申し候と辭し、言水は朝貌に黃なるは稀なりとのみいひて、五文字を置かず、方山は返答もせざりしよしを、その名の上に注したり、この事は北條團水が牘コトワシ牛に飽まで辨じたれども、こゝに要なければ贅せず、よりて思ふに、天和貞享のころ、牽牛花の流行せしことあるなるべし、もししからずば、黄花は今も稀なるに、當初あるべうもあらず、あらずば黃あり白ありといふべからず、

〔武江産物志遊觀〕牽牛花下谷本所

花形の變りは孔雀、亂獅子、梅、咲、桔梗、咲、ち、龍胆、咲、茶屋、吹屋、切、眉、尺、系、咲、卷、風、折、薩、摩、紺、絞、い、ぎ、り、葉、形、の、變、り、は、島、柳、葉、の、變、り、は、龍、の、眉、龍、田、川、葉、葵、葉、柿、葉、黃、葉、宇、津、川、圓、葉、紅、葉、ば、南、天、葉、七、福、神、破、柳、馨、葉、は、山、鳥、金、剛、獅、子、石、花、木、立、龍、鼠、葉

牽牛子栽培
〔農業全書十〕藥種之類、牽牛子